

2024年度履修系統図・カリキュラムマップ(看護学科)

【基礎科目】

GP1
学生が自ら学修計画を立て主体的な学びの実践を目指すスタディスキル、プロフェッショナルスキルを育む科目、高等学校との接続を考慮した科目を

GP2
現代社会における諸活動に必要な性の高い基礎的事項の修得を目的とし、基

【主題科目】

GP3
科学的思考の基礎や人間と生活・地域社会の理解、情報リテラシーについて学ぶための主題科目群を設置する。

【専門基本科目】

GP4
専門展開科目を学ぶ基礎となる医学系科目や周辺領域科目として専門基本科目群を設置する。

【専門展開科目】

GP5
生命の尊厳・人権の尊重と倫理観、地域で暮らす人々の看護を基盤に、個別の健康課題・ライフステージに対応できる専門的な知識を学ぶとともに看護実践能力を修得するための科目を

GP6
教養と専門知識を総合した多面的かつ領域横断的な観点から多様な課題を発見し解決する力を身につけ、多職種との連携・協働における看護専門職の役割を果たすことができるよう、演習科目やゼミナール科目を設置す

GP7
看護専門職としての実践力に加え、新たな学修課題や研究課題を発見する能力を身につけるために、事前事後指導を含む現場での臨床実習科目を設置する。

実施方法
①教養科目と、看護の基礎から応用へと段階的・発展的に学修できるよう、開講年次を工夫する。
②各演習科目やゼミナール科目などは少人数編成で実施する。
③課題解決型学習(Problem-based learning:PBL)の手法を取り入れた講義・演習を行い、学生相互の学修効果を高めるよう展開する。
④各科目の授業概要や到達目標、準備学習内容等を予め明示することにより、学生の事前事後の学修を促し、学修内容の定着をはかる。
⑤臨床実習は3段階に区分し、第1段階では看護の基礎となる実習を、第2段階では看護の実践を積み重ねる実習を、第3段階では能動的に自己の看護の集大成ができる構成である。加えて、地域における社会資源の活用やネットワークの構築(チーム医療・継続看護)、地域・コミュニティの力を地域活動からアセスメントし、住民の健康を守る看護を展開する。
⑥少人数学修担当制をとり、学修ポートフォリオを用いて担当教員との定期的な面談を実施し、主体的かつ個別的な学修方法が確立できるよう展開する。
⑦総合演習・卒業論文・卒業研究ゼミナールでは、担当教員を中心に、学生一人ひとりの個性や特性を尊重しながら、個別に学習指導・支援を実施する。

指定科目の教育内容	基礎科目		主題科目		専門基本科目		専門展開科目				
	1 年		2 年		3 年		4 年				
	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII			
2023	レクリエーション活動Ⅰ【1】	レクリエーション活動Ⅱ【1】	スポーツ理論【1】	言葉と文化(英語)Ⅱ【1】							
	英語Ⅰ【1】	英語Ⅲ【1】	言葉と文化(英語)Ⅰ【1】	言葉と文化(中国語)Ⅱ【1】							
	英語Ⅱ【1】	英語Ⅳ【1】	言葉と文化(中国語)Ⅰ【1】								
	情報処理演習【1】	医療英語【1】									
	基礎演習Ⅰ(スタディスキル)【1】	基礎演習Ⅱ(プロフェッショナルスキル)【1】									
	スポーツ【1】										
科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	ボランティア入門【1】	データサイエンス【1】									
	ボランティア活動Ⅰ【1】		ボランティア活動Ⅱ【1】		ソーシャルワーク論Ⅰ【1】				ソーシャルワーク論Ⅱ【1】		
	自然科学Ⅰ(生物系)【1】	自然科学Ⅱ(物理系)【1】	法学(憲法)Ⅰ【1】	社会学【1】	介護福祉論Ⅰ【1】				介護福祉論Ⅱ【1】		
	自然科学Ⅲ(数学系)【1】	自然科学Ⅳ(化学系)【1】	日本文学Ⅰ【1】	法学Ⅱ【1】					医療関係法【1】		
	自然科学概論【1】	障害者福祉論【1】			日本文学Ⅱ【1】						
	高齢者福祉論【1】	白山市の自然と文化【1】									
	心理学Ⅰ【2】	美術【1】			統計学【1】						
		日本史Ⅰ【1】									
		日本史Ⅱ【1】									
		心理学Ⅱ【2】									
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ(総論、運動器、体液・血液)【1,2】	解剖生理学Ⅱ(血液循環、呼吸、消化吸収、内分泌)【1,2】	解剖生理学Ⅲ(泌尿生殖器、神経系)【1,2】								
	栄養代謝学【1,2】	微生物学【1,2】									
疾病の成り立ちと回復の促進	医学概論【1,2】	病理病態学【1,2】	診断治療学Ⅰ(内科系)【1,2】	診断治療学Ⅲ(周産期)【1,2】	高齢者の心理【1,2】						
	リハビリテーション概論【1,2】	臨床栄養学【1,2】	診断治療学Ⅱ(外科系)【1,2】	診断治療学Ⅳ(小児)【1,2】	障害者の心理【1,2】						
			臨床薬理学【1,2】	診断治療学Ⅴ(精神)【1,2】							
			臨床心理学Ⅰ【1,2】	臨床心理学Ⅱ【1,2】							
			安全管理【1,2】	カウンセリング演習【1,2】							
			感染防御【1,2】								
健康支援と社会保障制度	保健医療概論【1,2】	保健医療制度論【1,2】			看護マネジメント論【1,2】						
	公衆衛生学【1,2】	社会保障制度論【1,2】			疫学・保健統計入門【1,2】						
	社会福祉概論Ⅰ【1,2】	石川県・白山市の保健医療事情【1,2】									
		社会福祉概論Ⅱ【1,2】									
基礎看護学	看護概論【1,2】	看護理論【2,3】	基礎看護学方法論Ⅱ(診療の援助技術)【2,3】		看護情報論【2,3】						
		看護倫理【1,2】	基礎看護学方法論演習Ⅱ(診療の援助技術)【2,3】								
		基礎看護学方法論Ⅰ(生活の援助技術)【2,3】	基礎看護過程論【2,3】								
		基礎看護学方法論演習Ⅰ(生活の援助技術)【2,3】									
	基礎看護学実習Ⅰ(早期体験実習)【2,3】		基礎看護学実習Ⅱ(療養生活援助実習)【2,3】								
地域・在宅看護論		地域・在宅看護学概論Ⅰ(健康・生活支援)【1,2,4】	地域・在宅看護学概論Ⅱ(療養・生活支援)【2,4】		地域・在宅看護学実践論【2,3,4】		地域・在宅看護学実習【2,3,4,5】				
			地域・在宅看護学演習【2,4】		地域・在宅看護技術演習【2,3,4】						
成人看護学		成人看護学概論【2】	成人看護論Ⅰ(慢性期・終末期)【2】	成人看護論Ⅱ(急性期・回復期)【2】	成人看護学演習Ⅰ(慢性期・終末期)【2,3】	成人看護学実習Ⅰ(慢性期・終末期実習)【2,3,4】					
				成人看護過程展開論【2,3】	成人看護学演習Ⅱ(急性期・回復期)【2,3】	成人看護学実習Ⅱ(急性期・回復期実習)【2,3,4】					
老年看護学			老年看護学概論【2】	老年看護論【2】	老年看護学実習Ⅰ(施設実習)【2,3,4】	老年看護学実習Ⅱ(病院実習)【2,3,4】					
			認知症ケア【3】	老年看護学演習【2,3】							
小児看護学			小児看護学概論【2】	小児看護学実践論【2】	小児看護学演習【2,3】	小児看護学実習【3,4,5】					
母性看護学			母性看護学概論【2】	母性看護学実践論【2,3】	母性看護学演習【2,3】	母性看護学実習【2,3,4,5】					
精神看護学			精神保健看護学概論【2,4】	精神保健看護学実践論【2,3,4】	精神保健看護学実践演習【2,3,4】	精神保健看護学実習【2,3,4,5】					
領域横断					エンド・オブ・ライフケア実践論【2,3】						
看護の統合と実践			災害看護論【3】	チーム医療論【3,4】	実践看護学実習Ⅱ(多職種連携実習)【2,4,5】						
			国際看護論【3,4】	地域と看護【3,4】	卒業研究ゼミⅡ(研究実践ゼミ)【3】						
			看護学研究法【3】		卒業論文【3】						
					チーム医療演習【4,5】		総合演習【2,3,4,5】				
			実践看護学実習Ⅰ(地域活動実習)【2,4,5】	卒業研究ゼミⅠ(研究探究ゼミ)【3】			看護教育論【5】				

DP1
教養、専門性、倫理観を兼ね備え、生命の尊厳と人権を尊重し擁護

DP2
看護学に関する基本的な知識と技術を身につけ、地域で暮らす人々への看護を基盤に、個別の健康課題・ライフステージを考慮した看護を実践することがで

DP3
看護専門職としてエビデンスに基づく適切な判断ができ、課題解決のための実践・研究ができる

DP4
地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性和方法を理解して、多様

DP5
保健・医療・福祉の場でリーダーシップを発揮し、看護専門職としての役割・責任を果たす能力を